



水平社博物館（奈良県御所市）

奈良へ

「そつだ。奈良に行こう」  
そう思ったとたん、私は、奈良行きチケットをインターネットで購入していました。今年、水平社創立大会宣言が出されて100年です。水平社博物館がリニューアルオープンすることを知らした。

へと向かいました。

「明るく」

展示室に入り、まず驚きました。とにかく明るい。白が印象的でした。以前の重厚感があり、身が引き締まる感じがする展示室とは違うものでした。

最初のコーナーで再び驚きました。今までより文字の数が少ない。そして書かれている内容が分かりやすい。人の想いは永遠で不滅なんだと訴える「鬼滅の刃」。人のつながりや世界をひとつなぎにすることの大切さを訴える「ワンピース」。多様性を訴えるミュージシャン「ブルーハーツ」の曲の歌詞。権利のために立ち上げられ、あきらめるなと訴える「ボブ・マーリー」の曲の歌詞紹介等々。

分かりやすい理由は、水平社の伝えたいことと重なる展示にあると気がつきました。さまざまな展示は、世代や時代を超え、見学する人にとって身近なものとして、自分と重ねて考えることができる内容だったのです。

他にも、タッチパネルや映像コーナー等があり、そのどれもが興味深く学ぶことができるものでした。

展示室を出た時には、何か熱いものがわきあがっている自分がいきました。水平社が考えていた差別のない世の中の

水平社と水平社博物館

全国水平社は、身分制度がなくなってからも差別に苦しんでいた人々が1922年3月に立ち上げ、差別をなくす運動を繰り広げていきました。

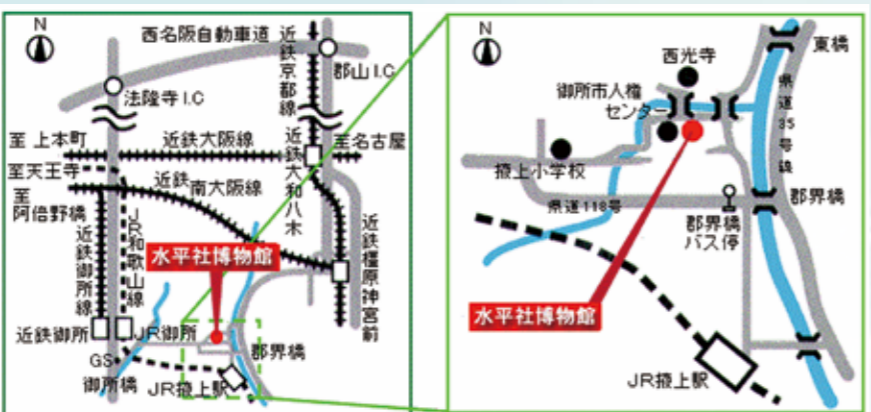
水平社博物館は、水平社運動のあゆみや、差別に立ち向かってきた先人たちの精神を伝えるため、水平社発祥の地である奈良に、水平社歴史館（1999年水平社博物館と改称）として、1998年5月に開館しました。

久しぶりに訪れる水平社発祥の地。どのようにリニューアルされたのだろうと期待に胸をおどらせ、水平社博物館

実現。そのために、**人間を尊敬することによってみんなで差別を克服していこう**という理念。それは、まさしく多様性が求められる現代においても通じるものであり、自分ができることからもう一度進めてみようという想いに立たせるものでした。

水平社博物館は、「何度でも見学したい。また行ってみたい」と思う所でした。あちこちにちりばめられた水平社の考え方や想い、それは、子どもから大人まで水平社の熱を感じることができるといっていました。

また、人権問題を明るく考え、課題と向き合い正しく考えていくことが大切であることを実感できる所でした。



「水平社博物館」行程図

「人間性の原理に覚醒し人類最高の完成に向かって突進す」という水平社ができた時の方針は、誰一人取り残されることなく、地球上のすべての人が豊かで幸せに暮らせる社会の実現に通ずるものであると改めて思いました。そして、**自身の存在に誇りをもち、人間を冒瀆してはならぬ**という言葉は、まずは、自分自身を大切にすることであり、相手を尊敬することが一人ひとりを大切にすることにつながるということを感じ取らせるものでした。

人間関係が希薄となったと言われる現代。そんな今だからこそ、「人間が相互に尊重される社会をと共に築いていこう」とさまざまな資料で訴える水平社博物館は、今の自分にとって、できることは何かを振り返らせるものとなりました。

差別がある社会の仕組みを変えていくために、私はまず自分自身を好きになろう。そして、身近な家族や子どもたち一人ひとりに「尊敬する言葉」をかけていこう。そうすることで、私の内なる「水平社宣言」が始まるような気がするのです。

福岡に戻って

福岡に戻った私は、もう一度「水平社創立大会宣言文」を読み返すこととしました。

人の世に熱あれ、人間に光あれ